

## バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	第103回 日本栄養・食糧学会 関東支部大会シンポジウム 「イチゴに秘められた機能性と可能性」
演題名	イチゴ中の栄養・機能性成分のイメージング質量分析法を用いた分布解析
発表者	榎元廣文  研究室名：食品分析学研究室、先端機器分析センター（兼任）
内容	<p>平成最後の関東支部大会シンポジウムとなる本シンポジウムは、平成26年度より本年度（平成30年度）まで実施された、文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログラム（とちぎフードイノベーション）」において、「イチゴの機能性の検索」に関する研究成果の報告を趣旨として開催されました。（リンク <a href="https://www.jsnfs.or.jp/event/event_20190316.html">https://www.jsnfs.or.jp/event/event_20190316.html</a>）</p> <p>本シンポジウムでは三菱ケミカル（株）、宇都宮大学、北海道大学の研究者の方々より、イチゴの栽培・育種、イチゴに含まれるファイトケミカルの生体調節作用、イチゴの嗜好性、およびデータサイエンスから推定するイチゴの美味しさ、に関する講演が行われました。（添付のポスター）。特に、三菱ケミカルの石原氏は、'とちおとめ'および'スカイベリー'の生みの親であり、生産量日本一である栃木県のイチゴの歴史を知る貴重な講演となりました。本学の榎元講師は、本シンポジウムの最終演者として、イメージング質量分析法という新しい分子イメージング手法を用いて明らかになった、イチゴ中の様々な栄養・機能性成分の分布に関する新しい知見について、講演を行いました。本シンポジウムには大学関係者のほか、企業、および栃木県農業試験場の方々も多数参加され、質疑応答では活発な議論が行われました。</p> <p>本シンポジウムの成果が、今後、より高品質なイチゴの研究・開発に貢献することが期待されます。</p>
関連画像	 